

V. 特記事項

1. 第2外国語「ポルトガル語」の開講

越前市は近年外国人が増加しており、特にブラジル人は越前市の総人口に占める割合が約5%に上がっている。そのため越前市では、外国籍の児童・生徒の地元幼稚園、小学校への受け入れに際して、言葉の問題や異文化相互理解の問題に取り組むことが求められている。本学では地域社会の活性化及び多文化共生に貢献できる専門知識と実践的なスキルの習得を目的として、令和2(2020)年度から学部共通科目の第2外国語に「ポルトガル語」を追加し開講している。なおこの科目は、越前市及び地元企業による寄附講座として開講している。

◇エビデンス集 資料編

【資料特-1】仁愛大学ポルトガル語寄附講座の設置に関する協定書

【資料A-2-4】と同じ

2. 学長裁量経費による各学科の取り組み

本学では、平成26(2014)年度に学長裁量経費を新設し、本学における「教育改革」「教育改善」に繋がる仕組みを支援している。心理学科では、平成29(2017)年度から「心理学キャリアプログラム」を開始し、文化心理学や比較文化心理学的な観点から地域連携活動と地域研究に基づく課題に取り組み、多文化理解・共生・交流などの活動をとおして学びを深めている。健康栄養学科では、越前市在住外国人の食・生活習慣と健康の問題を把握し、食文化交流やイベント実施を行う準備をしている。『健康増進』を念頭においた『多文化共生』に取り組むことで、互いの食や健康に関する文化や習慣を理解しながら、在住外国人のライフステージに対する食と生活習慣の提案に繋げることを目的としている。

子ども教育学科では、特記事項1に記述したとおり、企業ならびに地元自治体からコミュニケーション手段としてのポルトガル語の習得が求められていることから、平成30(2018)年度から学生と越前市の保育現職者が、初歩的なポルトガル語の修得を目的とした「保育者及び学生のためのポルトガル語入門講座」を実施している。

◇エビデンス集 資料編

【資料特-2】学長裁量経費実績報告

3. SDGsの推進

本学は、令和2(2020)年に「ふくいSDGsパートナー」に登録し、全学でSDGs活動に取り組んでいる。さらに地域や国際社会の課題・ニーズ解決のために活動している者に与えられるSDGsアクター第1グレードに現在26人の学生が認定され活動している。令和2(2020)年度には、福井県内の企業や団体、学校等の活動を対象に「FUKUI SDGs AWARDS 2020」を企画し、公募・審査・表彰を行った(応募数は179件)。福井県内のSDGs活動の活性化に貢献しており、今後も継続していく予定である。

◇エビデンス集 資料編

【資料特-3】SDGsアクター資格認定制度2020 https://sus-pro.or.jp/?page_id=1032

【資料特-4】SDGsアクター認定規定

【資料特-5】FUKUI SDGs AWARDS チラシ